

太鼓や音楽でつなぐ笑顔の輪 ～人を思いやる心 体も心もたくましく～

子どもの声にとことん耳を傾け、今この時を大切に、
人が温かい地域、思いやりの気持ちあふれる福島市で
のびのびと育ち、リスペクトの気持ちを大切に、
やってみたい!挑戦したい!の好奇心をずっと応援します。
はばたけ!!未来に輝く子ども達!!



社会福祉法人北信福社会

ほくしん保育園 あづま保育園

《触れ合い遊びの重要性の再認識》 ～保育者の思い～



音楽を通して、子ども達に安心感を与え、周囲と関わりながら遊ぶことの楽しさを伝えていくこと。わらべ歌・手遊び・身体遊びなど、言語機能・運動機能・社会性などの発達に必要不可欠であり、とても重要です。失敗体験と成功体験を繰り返し、楽しかった経験から向上心が現れ、生きていく上で必要な力を遊びの中から学び、豊かな育ちへとつながります。発想力・想像力を育てていくことで、思考力も芽生えていきます。無限の力、可能性を広げる環境づくりのあり方を、これからは試行錯誤しながら、今後も日々一人ひとりの子ども達と向き合い、寄り添っていきたいと思います。

《地域交流》 ～触れ合いからの学び～



◎地域開催の文化祭で、太鼓の演奏を見て頂き、交流を深めることができました。元気に太鼓をたたく姿を見て、地域の方からの盛大な拍手を頂き、会場全体に笑顔が広がり、コロナ禍で出来なかった3年間の想いを強く感じました。これからも地域の伝統継承や、子ども達自らのやる気を大切に、地域の方と交流をもち、開かれた保育園でありたいと思います。

◎隣接している老人ホームのお年寄の方と、よさこいや竹太鼓を通して触れ合う機会を設けました。とても喜んで頂き、子ども達からは「また見せてあげよう」という声が聞かれ、優しさやいたわりの気持ちが芽生えたようです。



～チャレンジから成功体験へ～



「もっと上手になりたい！」という気持ちから、「楽しくて仕方がない」と思いが変わり、太鼓の練習以外でも遊びの中で椅子を太鼓に見立て、自発的に練習する姿が見られてきました。「やりたいの気持ち」から、日々努力を重ねることで、新しい事にチャレンジしてみようという気持ちが自然に現れ、好奇心の広がりが感じられました。中には「もう出来ない！」というお友達に、「一緒にやってみよう」という励ましの言葉が出るようになり、子ども達の中でチームワークが高まり、同じ目標を達成するための原動力に繋がりました。

～保育園交流を通しての広がり～

コロナ禍で交流がなかなか難しくはありましたが、リモートを活用し、姉妹園やスプーン保育園と交流を行うことができました。他の園の友達に会えることを、今か今かとワクワクしながら楽しみにしていた子ども達。満面の笑顔で、いつも以上にはりきっている姿が、とてもキラキラしていたように思います。人との繋がりがを広げる為、保育園同士の交流により、共通した目標をもって頑張ろうとする力や、自信や意欲に繋がりました。これからも交流の輪に広がりをもてるようにできればと思います。





心・技・体

～子ども達の変化～



子ども達が「竹をたたいて、年長組さんの太鼓のようにかっこよくなりたい！！」という気持ちから、子ども達の心を豊かにし、音楽を通して人との輪の広がりがありました。

子ども達の主体性を大切に、子ども達自身が太鼓の曲を選んだり、どうしたいかを時間をかけて決めていくことで、やる気が芽生え、太鼓だけでなく生活発表会でも

「自分達で振付をしたい！！」という声があがり、職員も驚きました。子ども達で考えて形になるまでにはとても時間を要します。

つい保育士も「こうすれば良いのに・・・」と思うこともありました。が、「やればできる！！」を合言葉に頑張った成果や姿はとても見事としかいいようがありませんでした。大人主体での保育ではなく、子ども主体の保育の大切さを、地域の方や子ども達の気づきから

教えて頂いた思いで、今後の保育の大きな成果となった経験をさせて頂きました。

これからも、子ども達自らの発信力や気づきに、とことん耳を傾け、寄り添っていきたいと思います。

